

人権講演会「気になる子の理解と支え方を学ぼう～発達障がいと療育～」

講師 植田照美氏（君津地区自閉症協会顧問）

1. 障がいはどこにあるのか

「障がい」については身体障がい、知的障がい、精神障がいがあるが、これらは障害物競走と同じで、本人ではなくその外側に障害があります。

例えば、車椅子の人にとって段差は障がいとなりますが、視覚障がいの人にとって段差がないことの方が障がいになります。このように、人によって障がいとなったり必需品となったりします。



2. 発達障がいとは？

発達障がいは、発達障害者支援法には「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」とされています。しかし、病院に行っても「発達障がい」という診断名は出ずに別の病名が出るように、実は結構曖昧なものです。

「障がい」とつくと、親としてはとてもショックに感じますが、浜松医科大学の杉山登志郎先生は発達障がいではなく「発達凸凹」と呼んでいます。発達にデコボコがあり、優れているところもあれば低いところもあるということです。また、精神科医の山登敬之先生は発達の仕方に特徴（少数派）があることから「発達マイノリティ」と呼んでいます。少数派ということで生き方が楽になるわけではありませんが、マイノリティとして配慮が必要だと捉えてもらえます。

3. 支援、はじめの一步

支援についてですが、熱意があればできるものではありません。ある高機能自閉症の方の言葉では、「無理解からくる熱意ほど、僕たちを苦しめるものはない」と言っています。熱意は1番ではなく、障がい特性に対する知識と理解が最も重要です。

4. 子どもの発達を支えるもの

「発達障害」の〇〇ちゃんではなく、〇〇ちゃんの発達にはデコボコがあると捉えることが大事です。子どもであることに変わりはないので、まずは受け止めることです。そして、親はその子どもに合わせて知識や情報をカスタマイズしてもらいたいと思います。

発達障がいの子は自己肯定感がどうしても低くなってしまいうので、子どもの中に生まれる「手ごたえ」「できた」「わかった」という感じを大事に、子ども自身が「できるかも」と思えるよう自信をつけてもらいたいです。

5. 自閉スペクトラム症 (Autism spectrum disorder;ASD)

(1) スペクトラムとは？

かつてはアスペルガーや高機能自閉症などと呼ばれていましたが、2013年以降、現在はアメリカの診断基準 (DSM-5) として診断名が出ています。※2013年5月発表アメリカ精神医学会「診断と統計のためのマニュアル第5版」(Diagnostic statistical manual of disorders;DSM-5)

「スペクトラム」とは「連続体」のことで、例えば、虹でいいますとグラデーションのように境目があいまいな部分があります。もっと分かりやすくいうと、水とカルピスの濃淡関係で表せます。端と端に水とカルピスの原液があり、水の隣には水とカルピス1滴、中間は水とカルピスが半々、カルピス原液の隣には水1滴とカルピスというように連続しています。



このように、障害特性の色濃い人から、薄い人まで含めて捉えるものです。こだわりや匠の部分もそういうことになります。社会には発達にデコボコのある方はたくさんいます。

問題となるのは、年齢相応の社会生活を営むのに支援があるかどうかということです。支援があるかないか、暮らしやすくなる支援があれば生活できる、これが考え方のベースとなります。

(2) 自閉スペクトラムの昔と今

1960年代に初めて「自閉症」という言葉が日本に入って来ました。当時は先天性のものではなく、後天性のものと考えられており、エリート家庭に生まれた子どもが親の関わりが冷たいことで起きるのではと考えられていました。今で考えれば、感覚過敏があり、構われない方が安定していたのだらうと思います。

(3) 忘れられない障害

多数派は記憶を概念に変えることができますが、少数派は写真や動画のように記憶する長期記憶の特性があります。そのため、似たような状況が起こるとフラッシュバックしてしまうため、嫌な記憶が残らないようにした方がいいです。そのため教え方、伝え方が大事となります。

また、最初に覚えたことを上書きするのが苦手なため簡単で正しいやり方を教えてあげることが大事です。グズるからやってあげると、それが成功経験として誤学習してしまいますので注意が必要です。親が判断を迷った時には難しいものよりも、易しいものを選んだ方がいいです。これは、できなかったときのデメリットの方が大きいため、易しいものを選ぶことで親と子のバトルもなくなります。

(4) パニック

同じ人でも、環境やその日の体調によってパニックになったりならなかったりします。そのため、先を見通せる生活を保障する関わり方によって、パニックを減らすことができます

(5) 感覚過敏と偏食

- ・ 聴覚過敏：空調のわずかな音、ノートをめくる音、字を書く音でも不快に感じます
- ・ 視覚過敏：新しい蛍光灯でも、古い蛍光灯のように点滅して見えています。
- ・ 触覚過敏・鈍感：着慣れたシャツ以外切れなかったり、服のタグが嫌いだったり、手を繋ぐのが嫌だったり、ソツと抱かれるのが嫌だったりします。反対に鈍感な子もいます。
- ・ 臭覚過敏：お弁当を食べているときに部屋に充満したにおいを嫌う子もいます
- ・ 味覚過敏・偏食：味・噛み心地などが苦手で、好き嫌いとは別ものです。偏食の改善として「一口ずつ」食べたなら好きなものをあげるという方法は良いのですが、その子にとっての「一口」の量は離乳食のひとさじ程度だったりします。

(6) 同じ行動を繰り返す

このような行動のときは、不安で、できることだけ繰り返しているだけなのかもしれないというのを周囲が理解してあげることが大切です。「自傷」というのは他から入ってくる感覚が怖いためにそれ以上の強い刺激を与えているという行動です。

状況を理解できるように伝えているか、不安なことはないか、確認が必要です。

(7) 視覚的に考える（視覚優位）

概念の理解が困難で具体的に詳細に捉えるので、具体的に絵で示してあげるとよいです。また、「ちょっと」や「はやく」「どンドン」「もっと」というような抽象的な言葉は理解が難しいので具体的に言ってあげることが大切です。

(8) 独特の注意の向け方

関連性を把握することが苦手で、全体よりも細部に注目するため探し物をするのが苦手です。これは闇夜に懐中電灯を当てて探し物をしている状態と同じです。

刺激に影響を受けやすい（転動性）ため、切り替えが困難です。

(9) 時間や空間を整理統合することの困難さ

時間の流れの理解が困難で、予定を計画したり変更したりすることが困難です。空間に対しては、暗黙の境界線をイメージ・把握するのが苦手で、テーブルのどこまでを自分が使用してよいか理解が困難です。

以上、自閉スペクトラムが一番想像しにくいことから、詳しく解説しました。



6. 注意欠陥多動性障害 (Attention deficit hyperactivity disorder;ADHD)

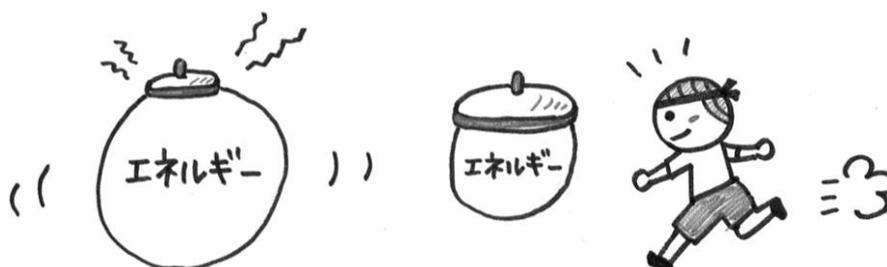
(1) 不注意

いわゆる「うっかりさん」で、忘れ物が多いです。玄関に出しておいても忘れてしまうということもあります。そのため、子ども時代に怒られることが多くなり、自己肯定感が下がりやすいです。そうならないための手立てをしてあげることが大切です。

(2) 多動

じっとしてられない、落ち着かない原因はエネルギー過多にあります。これは、大きなエネルギーを小さいふたで抑えている状態をイメージするとわかりやすいです。多動については9歳頃には収まっています。

対応として、エネルギーを小さくするために外で走らせるなどよく体を動かすことが大切です。



(3) 衝動性

順番を待てない、我慢できない、つい叩いちゃう、先生の発現にかぶせて話す、気に入らないと騒ぐ、ほかの人に指摘する、目に付いたらすぐ行動、という特徴があります。また、体は静かでも頭は多動な人もいますが、そういう人は大人になるとアイディアマンになります。

衝動性への対応としては、フープを利用して、目で見えて「並ぶ」「順番を待つ」ということを教えることも大切です。



7. 学習障がい (Learning Disorder, Learning Disability; LD)

LDは、読むこと、書くこと、計算することのどれかにつまづきがあります。

※最新の診断基準 (DSM-5) では限局性学習症 (Specific Learning Disorder; SLD) と名称変更。

(1) 読むこと

読字障がい (医学用語ディスレクシア, dyslexia)

特徴として文字を読めない。文字は読めても単語が読めない。文章が読めない。間違って読んでしまう (なめる→まめる、やります→やりましょう)。文字・単語・行などを飛ばして読んでしまう。読むのが遅い。音読ができていても意味の理解が困難。



(2) 書くこと

書字表出障がいで特徴として文字が書けない。誤った字を書いてしまう。漢字の部首を間違えたり、線が多かったり少なかったりする。単語が書けない。簡単な文章しか書けない。文法的な誤りが多い。



(3) 計算する

算数障がいで、特徴として繰り上がり、繰り下がりの理解ができない。掛け算、割り算ができない。位取りを間違ってしまう。暗算ができない。

これらに対して、学校時代に工夫をしてあげることが大切です。

8. 子どもとどう付き合う？

大事なポイントは2つあります。1つは、お家の人は意識して口角を上げて接してあげることです。子どもは親が不機嫌でいることは辛いものです。口角を上げていると、脳も錯覚して自分の機嫌も良くなっていきます。



もう1つは、最後に「褒め言葉」で終わらせることが大切です。最後の言葉が印象に残りますので褒めてあげること。「しっかり」「もっと」「できればさらに」などという意味でも、褒めたあとで注意したり注文をつけてはいけません。子どもは全員褒められて伸びます。

良いところを見つけて、成功経験を積み重ねてあげてください。失敗からは子どもは学べません。

9 終わりに～オススメの歌

レ・ロマネスク「飴と飴」の歌詞（作詞：TOBI）を最後に紹介します。

（前略）

ほめられて伸びるタイプです 間違いないです
叱られたら急にシュンとしてやる気失います
調子に乗ったらあなたが思うよりずっと頑張ります

（中略）

飴をください 飴だけください…
ムチなんて、さっきからいらないうって言うてるでしょうが！
世間は厳しいっていうのはあなたの考えでしょ、それを押しつけないで。
あなたは何にも考えずに僕のことを褒めてりゃあいいんですよ。
これからはお互いに褒合っていきましょうよ、それが世界の平和にもいつか…
飴をください 飴だけください ムチなんてホントもう十分です
浴びるほどプリーズ 飴オンリーをくださひ～

平成 29 年度人権講演会

（平成 30 年 1 月 30 日）

主催：小糸公民館

記録：會澤 直也

行先：アッキー